28　安藤七宝店《鵞ノ図花瓶》

明治四十年（一九〇七）
七宝
各径一一・五　高二四・〇

明治前期に輸出向けに大量に作られた七宝は、明治後期になると次第に落ち着いた渋い色味の釉薬を生み出すとともに、釉薬の一部を盛り上げる盛上七宝の技法を開発した。本作は小豆色の地色に、従来の有線七宝に加えて、ガチョウの嘴を盛上七宝で立体的に表した作品である。有線七宝で表されたガチョウの白い羽毛の部分も、陰影をつけるように若干色味を変えている。安藤七宝店は、明治十三年（一八八〇）創業以来、現在まで続く尾張七宝を代表する七宝業者である。本作は旧秩父宮家伝来品で、箱書から明治四十年に開催された東京勧業博覧会における御買上作品であることが判明している。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

鳥の楽園　―多彩、多様な美の表現
三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 68

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社 東京美術
翻訳　黒川廣子
発行　宮内庁
平成二十七年三月二十一日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan